

ベビーユニバースの開発成功事例その8：



(画像はイメージ)

成分表記ミスを根絶して印刷事故ゼロへ

一般的な印刷事故は印刷物だけを刷りなおせば何とか済む場合も多い。

しかし、日用品や食品に必ず記載しなければならない「成分表」で一旦ミスが発覚すると、製品の自主回収が必要になることもあり、そうなれば恐ろしい損害額となる。

実は製品の自主回収は製品そのものの不具合よりも、この「成分表記ミス」が一番多いらしい。従って、各メーカーや請け負う印刷会社はデザインよりもココに一番神経を使うそうだ。

日本を代表する最大手の日用品メーカーから、この成分表記ミスを判別するソフト開発依頼が来たのは、もう十数年前になる。

最初はエクセル等で作成された「元となるテキストファイル」と「成分表」との比較というシンプルな機能だった為、私どもの開発チームの「開発ボリューム」は比較的小さく、見積りも容易に通った記憶がある。

しかし、それが悪夢の始まりだった。

(守秘義務があるので、詳細は避けるが、)

その大変さの一例をあげてみる。「成分表記」は全て1つの単語毎に区切っているとは限らず、続けて書いてあるケースが意外と多いのだ。そうすると、最初の方で仮に「文字抜け」があると、そこから先は全て一致せず、ミスの場所を特定することができない。

つまり人間なら簡単に「ココだけが抜けている」と考えられるのだが、コンピューターは「ココ以降が全て間違っている」と判断してしまうのだった。ある意味それは間違いではないので、そもそも「不一致の定義」という根本の部分から考える必要があった。

全機能を搭載したベータ版というモノを納品後も、様々な問題が次から次へと発覚し、それらを1つ1つ潰していくデバッグという作業が想定の数倍以上かかってしまった。

それは当然見積りミスであり赤字とはなったが、我々がこの検証という分野で数々の実績をあげる為には避けて通れない「開発事例」となった...